

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	第二回 バイオ・環境系 教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成 27 年 11 月 20 日 (金) 15 時 30 分～17 時 40 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール (第一部)、1104 教室 (第二部)
参 加 者	<p>外部委員：6 名 内部委員・学内関係者：7 名</p> <p><外部委員：6 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>池上 正人 (NPO 法人日本バイオ技術教育学会理事長／東北大学名誉教授)</p> <p>市川 和人 (トコスエンタープライズ株式会社)</p> <p>皆川 剛 (水 ing 株式会社)</p> <p>早乙女 俊行 (ペントロンジャパン株式会社 取締役 品質管理本部本部長)</p> <p>小野寺 洋子 (株式会社 光英科学研究所 取締役研究統括)</p> <p>藤沼 俊則 (NEC 株式会社 都市・交通基盤事業部／グローバルビジネス推進部 マネージャー 兼 医療ソリューション事業部エキスパート)</p> <p><内部委員：5 名></p> <p>大江宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长、議長)</p> <p>今野祐二 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长)</p> <p>井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科)</p> <p>大藤道衛 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科)</p> <p>松井奈美子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科、書記)</p> <p><学内関係者・第一部参加者：2 名></p> <p>三上 孝明 (同 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長、第一部のみ)</p> <p>白井 雅哲 (同 企画部長、第一部司会、第一部のみ)</p>
会 議 録	<p><第一部 全体会 (「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と合同開催) ></p> <p>開会の辞・スケジュール案内 (司会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認 4. 平成 27 年事業計画進捗状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業実践専門課程申請報告 <li style="padding-left: 20px;">「建築監督科」新規申請 <li style="padding-left: 20px;">「Web 動画クリエイター科」更新申請 ・ 環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業 進捗報告 ・ リアルジョブプロジェクト進捗報告 <p><第二部 系別分科会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 議長挨拶 (大江) 2. 前回議事録確認 (大江) <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材目標 <li style="padding-left: 20px;">バイオ：命と健康を守る分析技術者・生産技術者 <li style="padding-left: 20px;">環境：持続可能な社会づくりに貢献できる環境技術者 ・ 現行科目等で強化すべき点 【バイオテクノロジー科】 ①バイオ実験英語：簡単な化学実験を題材にした英文の解釈＋実験の実施により、学生の英語苦手意識を改善する対策を行っている。 《指摘事項》カタカナ英語と実用英語は発音が違う。発音の対策も行うべきだ。 ②動物実験系実習：実験動物系実習が不足しているという指摘に対応。 コマシラバスを一部変更し、動物 (マウス) を利用した細胞系実験、免疫系実験を実施。(2015 年 11 月～12 月)

【環境テクノロジー科】

- ①エンジニア系科目：エンジニアリングの基礎、環境とエネルギー、処理装置の概要などの授業で対応し、機械設備保守管理系就職対応を行っている。
- ②電気系機械系科目：2年1期電気工学入門科目（単位にならない科目）で対応を行った。

・その他

議事録中に他校で大学・企業インターン先に年間で200万円の費用支払うとあるが金額は誤り。費用負担はしているがもっと少ない金額である。（外部委員）

3. 意見交換

【議題】 RJP の正規授業化 履修表変更にあたり

《バイオテクノロジー科》

- ・バイオでは医療系に就職を考えているようだが、その場合ゲノミクスやバイオインフォマティクスの授業が必要ではないか？（外部委員）

➡ゲノミクスの実習に関しては機材が高い事もあり実習は行えない。以前「ゲノム化学」という授業でゲノミクスの事を講義していたが基本的概念を教えておけば就職先で対応できると判断している。現在は、遺伝子工学や分子生物学などでその概念を教えている。実習ではバイオ総合実験内でGM、ヒトゲノム、DNAチップの実習も行っているが履修表には出てこない。また、インフォマティクスについても以前授業を行っていたが就職先がない事や、授業科目が多いため学生が消化できないといった理由でなくなってしまった。（内部委員）

- ・教えているのであれば、履修表名に書いた方が良いのでは？他の専門学校では科目名として記載されている。（外部委員）

➡以前は履修表に授業で行っている内容がわかるような科目名にしていた。しかし、大学編入時それらの名前では単位互換ができなかった。そのため、大学と同じような教科名にしている。また、シラバスを参照してもらえれば、行っている事が表記されている。（内部委員）

- ・バイオ化学の授業内容は何ですか？（外部委員）

➡有機化学を教えている。環境の有機化学とバイオでは時間数が違うので教科名を変えている。（内部委員）

- ・ライフテクノロジー概論の授業内容は何ですか？（外部委員）

➡生活する中でバイオテクノロジーや生物、化学といったバイオに関係する内容を概略的に説明している。以前バイオテクノロジー概論としていた科目であるが、より生活に関連性を持たせる意味でこの名称にした。（内部委員）

- ・技術者育成を目指しているわりに、実験動物の実習が少なかったので増えて安心した。しかし、実習は一人一人で行ってほしい。（外部委員）

➡実習は1年では2人で一班、2年では3人に一班で実習を行っている。基本的には一人一人で行っている。（内部委員）

《環境テクノロジー科》

- ・公害防止管理者の資格対策授業がなくなっている。必要ではないか？

➡これまでは就職活動に有利なることを優先して、1年次に基礎的な学力がないまま公害防止管理者試験を受けさせていた。この方法では、学生が十分に内容を消化できないため、結局試験に合格できない。このような理由により、2年次に受験させる事にした。

履修表上対策授業はないが、空き時間を使用し対策を行う。

《共通》

- ・最新の情報などは授業に取り入れていますか？（外部委員）

➡バイオ：ライフテクノロジー概論（バイオテクノロジー概論）の後半などの授業で対応している。以前、今週の新聞という授業で行っていたが毎週の授業に適切なニュースや最新情報が必ずあるとは限らないためこの科目は無くした。（内部委員）

環境：公害総論などで取り扱っているが、教科として取り入れるのは難しい。講義の合間にこのようなニュースがあったというような説明では対応可能である。

- ・校外実習（長野）では何を行っているか。地域の方との連携はできないか。

➡バイオ：池や川の水質調査、植生調査、軽農作業、そば工場見学

環境：モニタリング、鳥類・哺乳類調査、水質調査

地域の方との連携は今後検討したい。

- ・RJP 今後バイオ・環境はどう進展させるのか。評価はどう行うか。

➡RJP は基本的に「学生が決め学生が自主的に行う」事をスタンスとしている。その為、教員が決める事ではなく学生が展開を決める。

教員は指導ではなく、支援するといった形になるため、発展状況を決める事はできない。また評価方法は未定である。試案評価としてパワーポイントなどで発表をさせ企業の方や教員、学生が評価するといった形式を考えている。

- 4. 次回日程について（大江）

平成 28 年 3 月 18 日（金）予定

- 5. 閉式の辞（大江）

17：40 終了

以上